

# 要 望 書

下北半島縦貫道路の整備促進について

青 森 県 む つ 市  
青 森 県 む つ 市 議 会

## 下北半島縦貫道路の整備促進について

### 【要旨】

東北縦貫自動車道八戸線に連結し、その機能を最大限発揮する地域高規格道路「下北半島縦貫道路」の早期供用を図り、地域・拠点の連携を確保しストック効果をより高めるため、既着手区間の整備促進と未着手区間の早期事業化を要望します。

### 【理由】

当市の道路行政の推進につきましては、平素より特段の御高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

東日本大震災では、大規模な損傷がなく震災翌日には緊急車両が通行可能となった高速道路と国道279号は連携して、復旧支援等に重要な役割を果たしました。

平成24年2月の暴風雪時にも「下北半島縦貫道路」の供用区間においてはその影響が少なく、除雪作業の応援、一般車両の災害回避等に大いに役立ちました。

こうしたことから、平成27年12月に策定した「むつ市国土強靱化地域計画」においては、災害時の半島孤立化を回避する唯一の事業として「下北半島縦貫道路」の早期整備を位置づけています。

「下北半島縦貫道路」は、平成7年度に整備着手し、供用済区間「野辺地バイパス」、「有戸バイパス」、「有戸北バイパス」に加え、昨年11月15日に「吹越バイパス」が新たに開通となり、全長約68kmのうち25.3kmが供用されたところであり、沿線自治体の雇用の増加や交通事故の減少など、さらなる「ストック効果」の

発現が期待されます。

さらには、平成28年度に新規事業化となった「横浜北バイパス」をはじめ、既着手区間26.1kmにおいて着実に整備が進められるとともに、未着手区間でもあります、むつ市奥内から中野沢を結ぶ約10km及び野辺地町から七戸町を結ぶ約7kmにおいても早期の事業化がなされ、「下北半島縦貫道路」の全線が供用されることにより、救急医療ネットワークの向上や優れた地域産品の流通拡大が図られるなど、地域高規格道路としての真価が発揮されるものがあります。

災害に強く、安全で安心な暮らしと、人口減少の克服や地方創生を実現する下北半島地域をつくり、さらには国土の強靱化を図るためには「下北半島縦貫道路」全線の早期整備が不可欠です。

つきましては、下記事項について格別の御配慮を賜りますようお願い申し上げます。

- ・国の公共事業関係費を平成21年度以前の7～8兆円規模に回復させ、長期的、安定的に確保するとともに、地域の暮らしを守り、活性化を図る道路予算を確保すること。
- ・下北半島縦貫道路の既着手区間26.1kmの整備促進と未着手区間約17kmの早期事業化を図ること。

平成30年 月 日

むつ市長 宮下 宗一郎

むつ市議会議長 白井 二郎

